



# 明化の教育

2月号(第475号)  
令和2年2月3日  
文京区立明化小学校  
校長 溝畑 直樹



## 困難を乗り越える

副校長 松下 由紀子

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の年となりました。4年に1度、世界中の超一流のアスリートが競うこの大会が日本で行われる貴重な機会です。その熱気を感じながら応援し、しっかりと記憶に刻みたいところです。

これまでのオリンピック・パラリンピックでは、多くの日本選手が活躍しました。その中で特に私の印象に残っているのは有森裕子さんです。有森さんはマラソン選手として日本女子陸上選手では初めて、二大会連続で五輪メダルを獲得しました。順調に競技生活を送ってきたと思われがちですが、実は高校では補欠、大学在籍中もほぼ無名の選手でした。そのような状態でも、マラソンの世界で有名な小出監督に自ら連絡をとってキャリアを積み、初マラソン日本最高記録を出し、バルセロナオリンピックでは、女子マラソンで日本女子陸上選手として63年ぶりに銀メダルを獲得しました。しかし、代表に決まるまでは、けがや代表選考でのトラブルなど様々な苦しい思いを経験したそうです。また、次のアトランタオリンピックに至るまでも、監督や仲間との関係がうまくいかずに悩み、マラソンが暫く走れなくなりました。メダルに向かって謝りながら泣いたこともあったそうです。けれども、「このまま終わらせたくない」と奮起し、代表選手に再度選ばれ、本番では苦しい表情を見せながらも全力で走り、銅メダルを獲得しました。前回より順位は落としたもののゴール後の「メダルの色は銅かもしれませんが…初めて自分で自分をほめたいと思います」という言葉は、テレビで見ていた私の心に強く残っています。

マラソンは、42.195kmを走る過酷な競技です。そのための練習だけでも大変ですが、練習を頑張ったからといって必ず本番で勝てるわけではありません。有森さんも負けて悔しい思いを何度も経験しました。それでも、その試練を何度も乗り越えられたのは、自分ではできるという思いで頑張ったからこそです。それが「自分で自分をほめたい」の言葉となって表れたのだと思います。

日常生活の中では、自分の思った通りにならないことがあります。例えばテストで間違えてしまった時などは、次、間違えないようにもう一度復習するなど、自分で対策を進めて乗り越えていることがあるのではないのでしょうか。子供たちが生きていくこれからの時代、今まで経験したことのない困難が訪れることもあるでしょう。困難な場面にぶつかった時、誰もが多少の違いはあってもそれぞれに苦しみを体験していること、それを自ら工夫して乗り越えていることを思い出し、子供たちには自分の力を信じて前向きに頑張してほしいと思います。

さて、この一年、最高学年として明化小を引っ張ってきた6年生の登校日数は、35日となりました。思い出深い学び舎や先生、在校生と共に、残りの時間を大切に過ごしてほしいと思います。



## 放課後全児童向け事業説明会



来年度5月から、明化小学校は文京区が実施している放課後全児童向け事業を行います。平日は原則として授業終了後から午後5時まで、図書室、体育館、ピロティ等で過ごすことが可能となります(一部行事等のある日は除く)。詳しい内容は、2月の保護者会後の説明会にご参加ください。

なお、土・日曜日、祝日は、これまで通り「こどもひろば」を開催します。

説明会開催日・場所

2月25日(火)・体育館 15:40～

27日(木)・図書室 14:20～

※ 両日とも同じ内容です。